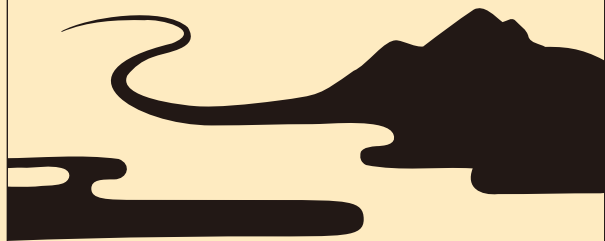


舞台「四面神楽」

— 日本を守った風の物語 —



九州総守護 四面宮
諫早神社

THE SHIMEN KAGURA

— *The story of the wind* —



Isahaya Jinja Shrine

舞台「四面神楽」

— 日本を守った風の物語 —

目次

プロローグ	神宿る雲仙	4
第一場	日本と九州の誕生	6
第二場	四面宮こと「おしめんさん」	10
第三場	日本を守った風の物語	16
第四場	おしめんさんと共に	24
エピローグ	喜びの舞歌	26

プロローグ 神宿る雲仙

遙か四百三十万年前、

何もなかった海に小さな火山島が顔を出します。

そして、激しい火山活動がくりかえされ

今から六十万年ほど前に

雲仙火山が産声を上げます。



やがて雲仙火山の噴火活動の中心は

北へと移り、多くの土砂が島の北側にもたらされ

雲仙と諫早が大陸として一体となっていきました。

火山島が島原半島となり、現在の諫早とつながること

美しい風景と、豊かな大地が創り上げられたのです。

ここから

雲仙と諫早を中心とした地域に

九州の守り神が宿る、神さまの物語が、始まります。

第一場 日本と九州の誕生

それはそれは太古の昔、宇宙の始まりの時。

天と地がまだ分かれていない、混沌とした世界。

形も定まっていなかった世界に、何かが誕生します。
その瞬間、芽を吹くように神さまたちが現れました。
そして、天地万物を司る神さまが言います。

「イザナギ、イザナミ。おぬしらに命ず
この矛^{ほこ}で、地上を搔^ほき回し、国土を固めよ。」

イザナギとイザナミは、天空に架かる橋に立ち
海に向かって矛を降ろし、ぐるぐると搔き回していきます。

すると、矛の先からしたり落ちる海水が固まって
なんと、島々が誕生していくではありませんか。

これが日本列島の始まりです。

そこに、九州（筑紫島）も生まれます。

日本最古の歴史書『古事記』には、

九州について次のように記されています。

「九州は、身一つにして、面四つあり」と。

つまり、九州は最初、4つの国だったのです。



第二場 四面宮こと「おしめんさん」

時を遡ること、今から1300年前。

ひとりのお坊さんが九州を訪れ

そこで、不思議な出来事に遭遇します。

海の彼方に見ゆる山。

空高く立ちのぼる白い煙が吹き出す山。

かの霊峰は何と申す地か。



それは雲仙と呼ばれる山、
雲仙こそ、求法の地なり。

神仏の天啓に打たれ、
導かれるが如く雲仙へとやってくる。

辺り一体が霧に包まれている。
心を乱すな！心鎮めて一步一步進むのだ。

その時、雲仙の空中に現れたのは
なんと空を覆いつくすような白い大蛇。



大蛇と目があった瞬間、白い大蛇は
たちまち、一身四面の美女に。

体を一つにして、四つの顔を持つ女性の神さま。

「あなたは何者ですか」と尋ねると

「私は九州の守り神である」と。

そして、大きな光を放って消えてしまったのです。

時の天皇は、ここ雲仙の地に四面宮という神社を建て
この守り神をお祀りすることに。

九州の人々に愛されたこの神様は

「お四面^{しめん}さん」という愛称で呼ばれるようになったとさ。

九州の四つの国とは

筑紫^{つくし}の国

豊^{とよ}の国

肥^ひの国

熊曾^{くまそ}の国



この四つの国は、時の移り変わりとともに
さらに九つの国に分かれていきます。

筑紫の国 ↓ 筑前^{ちくぜん}・筑後^{ちくご}

豊の国 ↓ 豊前^{ぶんぜん}・豊後^{ぶんご}

肥の国 ↓ 肥前^{ひぜん}・肥後^{ひご}

熊曾の国 ↓ 日向^{ひゅうが}・薩摩^{さつま}・大隅^{おおすみ}

こうしてこの大陸は、四つの国から九つの国になったことで、
いつしか「九州」と呼ばれるようになるのです。

第三場 日本を守った風の物語

※舞台セリフから引用

海という広大な自然の防壁に囲まれた日本。

外国からの侵略を受けることはない、

誰もがそう信じていた。

あの出来事が起こるまでは……

時は、十三世紀後半。時の政権は、鎌倉幕府。

日本全土を震撼させた大事件。

初代皇帝 チンギスⅡ ハン率いるモンゴル帝国、

別名「元」は、中央アジア大陸のほとんどを手中に収め、
当時、世界最強と謳われる大帝国だった。

第五代皇帝 フビライⅡ ハンがその座につくと、

その矛先は、日本に。

世界最大規模の艦隊に乗った十万を超える元軍が

ここ九州に侵攻してきた。

そう、あの「元寇」が起こるのである。

「見ろおおお、元軍がやって来たぞおおお。」

日本軍の数倍ともいわれる元軍の猛攻で窮地に追い込まれる日本。

怒涛の勢いで侵攻を続けてくる元軍。

日本の民は逃げ惑う。

日本軍も応戦するが、

元軍は対馬、そして壱岐へ侵攻、

その勢いでいよいよ博多湾に侵入

博多の街は、炎に包まれた。

元軍の侵攻は止められないのか。

穏やかな日常は、無くなってしまうのか。

日本史上、最大の危機が、今ここに。

そこに！

忽然と姿を現したのが、

体を一つにして、四つの顔を持つ神様。

そう、お四面さんであった。

お四面さんは
だれも見なかったことのない凄まじい嵐を起こした。
踊り狂う風。

まるで心を持つが如く、踊り狂う風。
その勢いはどんどん激しさを増し、

お四面さんの神意が宿った天地を揺るがす旋風によって
十万を超える元軍の船の艦隊は
瞬く間に、海の藻屑となったのである。



この出来事は、のちに「神風」と呼ばれるように。
日本の窮地を救った、お四面さん。
日本の民を守った、お四面さん。

「勝利の神」として、

「日本の守り神」として、

多くの人から崇敬を受けましたとき。

そう、「おしめんさん」は

日々、どんな時も

「私たちを守ってくださる神様」にございます。



第四場 おしめんさんと共に

元寇と言われても、想像がつかないほど
今は、穏やかな時代なのかもしれません。

でも、じつは私たちには見えていないだけで
この日々も、どこかでおしめんさんが風を吹かせ
あなたを守り

この平和を守ってくださっているはずです。

それは、自然の恵み、あたたかい心、
そして肌で感じる風から
そつとそこそこ加護を感じることができます。

おしめんさんと生きていく、
おしめんさんの風に守られながら生きていく。

この風と共に。

エピソード 喜びの舞歌

自然に宿りし 日本の神々
お守りくださる 日々の暮らし

自然の恵みを 授かれば
あふれる喜び 風に舞い

響きわたりし 笑い声
ここに集えば お囃子が鳴る

皆よ歌えや 祭りじゃ祭り
神よ踊れや 風の舞い（ハッ）

※「喜びの演舞」での口上

◇ この物語は、四面宮『縁起書』に記されている伝説をもとに描かれています

◇ 舞台「四面神楽」のイメージ動画を諫早神社の公式YouTubeでご覧いただけます

◇ 諫早神社は、かつての社名を四面宮と言い、九州総守護の神々を、祭神とする神社です



諫早神社
まとめサイト

発行元 — 諫早神社

〒854-0061

長崎県諫早市宇都町1-12

電話 0957-22-2073